

学会からのお知らせ

2026年 第1号
通号246号

日本社会教育学会
<https://www.jssace.jp/>

2026年度 六月集会のご案内

会場校から

萩原建次郎（駒澤大学）

2026年の六月集会を駒澤大学において開催する運びとなった。

本学は1592年に創立された僧侶の学び舎である「学林」を起源とし、430年を超える歴史を有する。曹洞宗の教えを建学の理念とし、「行学一如（学問と実践は一体である）」および「信誠敬愛」を精神的柱に据えてきた。知識の修得に留まらず、自己を深く省察し、他者と共に歩む実践を重視する姿勢は、生活に根ざした学びと社会の創造を目指す社会教育学の探求とも深く共鳴するものである。

会場となる世田谷の駒沢キャンパスは、都心にありながら駒沢オリンピック公園の広大な緑に隣接し、落ち着いた思索の場を提供している。現在は仏教学部をはじめ、文学、経済、経営、法、グローバル・メディア・スタディーズ、医療健康科学の7学部を擁する総合大学へと発展を遂げ、伝統を重んじつつも現代的課題に柔軟に応える開かれた学風を育んできた。

特に本学の社会教育主事講座は全学に開かれた資格講座として開講し、教職課程と連携しつつ、文化芸術、身体表現、子ども・若者、ジェンダーなどをテーマとした独自科目群を配置したカリキュラムを展開している。1988年から社会教育実習を

必修化し、実習期間も延べ14日間と、社会教育実践に丁寧に向き合い、地域住民や利用者、職員と関係をつくる時間をできるだけ確保できるよう努めている。予測困難な時代において、改めて社会教育の公共性や「共生」の在り方を問い直す本集会にとって、本学の教育環境は相応しい対話の場となるだろう。

加えて本集会では会場校企画として、世田谷区立平和資料館と川崎市平和館の協力のもと、「平和を学び語り合う場をどうつくるか」を準備している。

初夏の緑映える駒沢の地で、教職員一同、心待ちにしている。

【2026年度日本社会教育学会 六月集会】

- ・日時：6月6日（土）13:00～18:15
6月7日（日）9:00～17:10

※受付は各日、開始30分前から

- ・会場：駒澤大学 駒沢キャンパス
- ・参加費：1500円（会員の大学院生1000円）
学部生は無料（学生証添付の上、申込み）

※必ず事前にお申し込みください。次頁もあわせてご参照ください。

【目次】

2026年度 六月集会のご案内 会場校から	1
各地の研究集会・六月集会のご案内	2
理事会だより／事務局だより	3
寄贈図書一覧／会員動向	7
お知らせ・募集	8

各地の研究集会・六月集会のご案内

※詳細については、学会 HP 掲載のプログラムをご参照ください。

【第 50 回 北海道・東北研究集会】

- ・日 時：5 月 30 日（土）
5 月 31 日（日）
- ・テーマ：地域再生への教育計画（7）
- ・会 場：東北大学川内南キャンパス

【東海・北陸地区社会教育研究集会】

- ・日 時：6 月 13 日（土）
13：00～17：00
- ・テーマ：障害者の社会教育・生涯学習
—愛知の実践より—
- ・会 場：名古屋大学東山キャンパス

【第 50 回 関西研究集会】

- ・日 時：6 月 28 日（日）
10：00～16：30
- ・テーマ：現場とともに交流と対話の方法を
さぐる（5）～大学で社会教育を学
ぶ意味～
- ・会 場：関西大学梅田キャンパス

【第 26 回 中国・四国地区 社会教育研究集会】

- ・日 時：6 月 14 日（日）
13：00～16：30
- ・テーマ：社会教育的視点からみる
「地域と学校」2
—岡山県を事例に一
- ・会 場：岡山市立高島公民館

【九州・沖縄地区六月集会】

- ・日 時：6 月 27 日（土）
13：30～17：00
6 月 28 日（日）
10：30～13：00
- ・テーマ：合併後（79→21 市町村）の長崎
社会教育体制の現状から未来を語る
- ・会 場：長崎大学文教キャンパス

【六月集会】

2026 年度六月集会（6 月 6 日（土）～7 日（日）駒澤大学）の参加は、事前申込のみとなります。当日の参加受付はいたしません。金銭の授受もしませんので参加費も事前振込といたします。

また、状況次第では、オンライン開催となる可能性もありますので、必ず事前申込をしていただきますようお願いいたします。

《参加申込み》

学会 HP の申込システムからの申込になります（学会 HP に掲載のプログラムをお読みの上、お申込みください。）

参加費も申込締切日までの事前振込になりますのでご注意ください。

申込み受付は、5 月 1 日（金）～5 月 20 日（水）です。

問合せ先：事務局アドレス（jssace.office@gmail.com）

理事会だより

● 2026年度 第1回常任理事会

(2025年10月22日: Zoomによるオンライン開催)

出席: 常任理事21名、全国理事2名、幹事1名、事務局次長1名、事務局員1名

1. 審議事項

- (1) 2025年度第3回全国理事会議事録が承認された。
- (2) 退会者1名が報告され、入会者3名が承認された。
- (3) 今年度の組織体制と年間スケジュールについて、2026/2027の重点課題について会長からの説明を踏まえ、理事会体制と役割分担(業務概要)、担当経費配分、事務局次長(中山博晶(大阪公立大学))・事務局幹事(川上優貴(東洋大学大学院))がすべて承認された。
- (4) 社会教育士特別プロジェクトの新体制について、学会体制交代に伴う変更の提案があり、承認された。
- (5) 新規プロジェクト研究メンバーの募集について、手続きの提案があり承認された。
- (6) 会費減額制度申請者の審議について、新規申請48名、継続申請42名が承認された。
- (7) その他、公開質問状の対応について報告があった。

2. 報告事項

- (1) その他
 - ・2026年6月集会(駒澤大学)の日程が6月6・7日(土日)である旨、報告があった。
 - ・社会教育学会への要望書の受理について、報告があった。
- (2) 事務局より、幹事推薦の依頼があった。
この後、各担当ごとにブレイクアウトルームにて打ち合わせが行われた。

● 2026年度 第2回常任理事会

(2025年11月19日: Zoomによるオンライン開催)

出席: 常任理事22名、幹事1名、事務局次長1名、事務局員1名

1. 審議事項(報告を含む)

- (1) 2026年度第1回常任理事会議事録について、承認された。
- (2) 退会者1名が報告され、入会者6名が承認された。
- (3) 倫理委員会組織について、倫理委員の候補者とワーキンググループの設置が担当副会長から提案され、承認された。
- (4) 各担当から
 - ①研究
 - ・新プロジェクトの運営委員応募状況が報告された。
 - ・プロジェクト研究の9月上旬以降の活動状況が報告された。
 - ②ジャーナル
 - ・編集委員の委嘱および62巻2号特集テーマ案が説明され、承認された。
 - ・ジャーナル担当理事の役割分担が報告された。
 - ③通信広報
 - ・ジャーナル第1号への原稿募集記事の掲載に関する検討事項について説明がなされ、次回以降に改めて検討することとなった。
 - ④国際交流
 - ・今年度日韓学術交流研究大会は2026年5月開催予定であり、開催地および日程が確定次第、報告するとの説明があった。
 - ⑤組織財政
 - ・若手研究者の動向把握のため事務局へデータ提供を要望していると報告された。
 - ・研究動向について、複数大学に検討を依頼することが説明された。意見として、若手による新たな体制づくり等も検討すべきとの提案があった。
 - ⑥特別プロジェクト
 - ・中教審のワーキングの件について報告があった。
 - ・今後の予定として、部会を貫く共通課題を見出すため各部会から論点を提出し意見交換を行うこと、部会内では調査継続や研究会開催の予定があること、さらに研究成果の取りまとめ・発信方法について検討していく旨が説明された。

⑦倫理委員会は特になし。

(5) 幹事候補者について、配置案も含め新たに以下6名が承認された。

金亨善（中央大学研究開発機構）・久野亜希子（東京都立大学大学院）・中尾友香（中央大学大学院）・城田美好（早稲田大学大学院・助手）・チョムルリグ（東京都立大学大学院）・張妍俊（東京都立大学大学院）

(6) その他は特になし

2. 報告事項

(1) 博士論文を基にした投稿の取り扱いについて二重投稿に当たるかとの問い合わせが会員からあり、新旧ジャーナル担当理事で協議の結果、その恐れがあるため投稿不可と判断した旨が報告された。

(2) 要望書への対応について、引き続き三役で検討していく旨が説明された。

(3) 鹿児島大会での会場校企画の動画を会員限定で配信する旨が報告された。鹿児島大会の残金が学会に返金される予定で、鹿児島大学への謝意が述べられた。

(4) その他として、学会ホームページを新システムに移行する予定がある旨説明された。

● 2026年度 第3回常任理事会

(2025年12月17日：Zoomによるオンライン開催)

出席：常任理事17名、幹事7名、事務局次長1名、事務局員1名

1. 審議事項

(1) 2026年度第2回常任理事会議事録について、承認された。

(2) 入会者1名が承認された。

(3) 倫理問題への学会としての対応について担当副会長から説明があり、質疑の上承認された。

(4) 要望書の会員公開について、承認された。

(5) プロジェクト研究「DX時代の社会教育・生涯学習の課題」運営委員について、2段階での再募集を行うことが研究担当から提案され、承認された。

(6) 幹事候補者（追加）について、新たに1名（王倩然（早稲田大学アジア太平洋研究センター））が

承認された。

(7) その他は特になし。

2. 報告事項

(1) 文部科学省との協議について、前向きかつ率直な意見交換が行われたと報告があった。

(2) ユネスコ成人学習・教育に関するグローバル・レポート（GRALE6）への調査協力について、会員に対して一斉メールで意見募集を行い、その取りまとめを国際交流担当が行った旨が説明された。

(3) 各担当から

①研究

・担当内の役割分担、プロジェクト研究へのサポートのあり方、「DX時代の社会教育・生涯学習の課題」運営委員の応募状況、「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」PJ活動報告、プロジェクト研究の六月集会での報告内容について報告された。

②ジャーナル

・投稿論文（一般）の受理、書評・図書紹介の対応、第1回編集委員会の開催予定について、報告された。
・査読負担に関わって、やむを得ず編集委員の増員が必要となった場合には、ジャーナル担当理事が既に選出した候補者を提示し、メール審議を依頼する可能性が説明された。

③通信広報

・「学会からのお知らせ」2025年度第3号の校正依頼と、2026年度第1号の内容構成、通信広報担当内の分担についての報告された。

④国際交流

・2026-27年度国際交流委員候補3名について紹介され、承認された（承認事項）。
・国際交流担当内の分担、第16回日韓学術交流研究大会の日程・会場・仮テーマ、GRALE6への調査協力について、説明があった。

⑤組織財政

・若手研究者の動向把握のためのデータを受領し、今後検討予定である旨が説明された。

⑥特別プロジェクト

・プロジェクト会議の概要、調査、研究会について報告された。

- (4) 2026年度六月集会の準備について、進捗が説明された。六月集会の前週に全国理事会が開催予定であることがリマインドされた。
- (5) その他は特になし。

● 2026年度 第4回常任理事会

(2026年1月21日: Zoomによるオンライン開催)

出席: 常任理事 22名、幹事 8名、事務局次長 1名、事務局員 1名

1. 審議事項

- (1) 第3回常任理事会議事録(案)について、承認された。
- (2) 退会者 11名(うち 10名は 2022年度以降会費未納者)が報告され、入会者 2名が承認された。
- (3) 日本学術会議会員候補者の推薦について副会長より説明があり、承認された。
- (4) 6月集会企画について、PJ研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」の企画進捗の報告があった。
- (5) PJ研究「DX時代の社会教育・生涯学習の課題」の運営委員(再募集)について新たに 6名が承認された。
- (6) ポスターセッションの導入について研究担当より報告があり、質疑・ディスカッションの上、第73回研究大会からの実施を目標に準備を進めることになった。
- (7) 「学会からのお知らせ」2026年第1号について担当理事から説明があり、確認と調整が行われた。
- (8) 学会刊行物への掲載原稿について、掲載(転載)許可の申請について承認された。
- (9) 2026年六月集会全国理事会(対面)の運営方法等について意見交換が行われた。

2. 報告事項

- (1) 六月集会の準備状況について、地区集会の計画進捗状況と開催までの事務スケジュールが共有された。
- (2) 各担当から
 - ①研究
 - ・オンラインロハ台について、4-5月に開催予定である旨が報告された。
 - ②ジャーナル
 - ・第1回編集委員会の概要、62巻1号の進捗状況の報告があった。
 - ③通信広報は特になし。
 - ④国際交流
 - ・第17回日韓学術研究大会の開催概要と第1次案内(案)について報告があった。
 - ⑤組織財政
 - ・学会員構成の概要報告、詳細は今後報告予定。
 - ⑥特別プロジェクト
 - ・第18回会議(1月8日)の報告がなされた。
 - ⑦倫理委員会は特になし。

3. その他

- (1) 第73回研究大会(法政大学)について、第一報として3日間のスケジュールは概ね例年通りであり、会場校企画は実施されない予定である旨が説明された。
- (2) 会員のグループによる自主企画助成による企画開催(ラウンドテーブル「社会教育施設概念のゆらぎを問う」)について案内された。
- (3) ジャーナル投稿に際する倫理審査について質問があり、担当理事より現状および今後の対応について説明があった。

以上

事務局だより

◇会費納入状況は、会員サイトへログインして確認できますので、学会費を納めていない会員は、下記へお振込みください。

(9月で年度が替わりますので2025年9月から2026年度となっています。)

【振込先】 ゆうちょ銀行
振替口座 00150-1-87773
※他金融機関からの振込用口座番号：
○一九(ゼロイチキュウ)店(019)
当座 0087773

◇寄贈図書等は下記住所までお送りください。

【住所】〒189-0012

東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

◇『社会教育学研究』は、年報と統合され年2回発行です。発行都度業者から一斉発送となります。

◇住所・所属変更は各自HPの会員サイトにログインして変更してください。その際、所属ブロック・所属分類の変更もお忘れなく。(通信に掲載するため所属変更の方は、メールにて事務局にもご連絡ください。)

※『社会教育学研究』は、ご登録の住所に、印刷所より宅配業者のメール便にて配送しているため、郵便局へ転送届を提出しても転送されません。

◇現在、事務局は祝祭日除く月・木(10:30～16:30)テレワーク中です。

電話受付はしておりませんので、問い合わせ等はメールでの連絡をお願いいたします。

寄贈図書一覧

No.	著者	タイトル	巻号	出版社	発行年
1	孫佳茹 著	中華民国期の「童子軍」ボーイスカウト運動の受容と展開	早稲田大学エウ普拉クシス叢書 54	早稲田大学出版部	2025
2	わすれなぐさ（鈴木尚子） 作／Roko 絵	にんちしょうって、なんだろう？		三恵社	2025
3	公益財団法人社会教育協会	社会教育協会100年史 1925-2025		ヤマス文房	2025
4	石川敬史・中岡貴裕 編著	移動図書館をつくったまち ―地域文庫、図書館、そして「やまびこ号」―		郵研社	2026
5	江口怜 著	夜間中学との出会い方 未来を考えるための歴史		東京大学出版会	2026

※事務局受領 2026 年 2 月末分まで

※本学会に寄贈された図書・資料については『社会教育学研究』の書評、図書紹介の対象となることがありますので、ご了承ください。

会員動向

〈新規入会〉

綾 香音 神戸大学大学院
 今井 敏之助 こども家庭庁
 加藤 裕明 札幌大学・非常勤
 神谷 純子 帝京科学大学
 新里 早映 一般社団法人十勝うらほろ楽舎
 西尾 琢郎 東京家政学院大学・非常勤
 廣川 祐司 北九州市立大学
 丸山 智子 同志社大学大学院
 山田 朋和
 若木 常佳 福岡教育大学

〈所属変更〉

連絡なし

〈退会〉

(東北ブロック) 胡 韋
 佐藤 晋也
 (東京外国ブロック) 岡崎 友典
 (北陸東海ブロック) 名誉会員 小木美代子
 (ご逝去)

〈2022年度以降会費滞納のため退会〉

(東北ブロック) 藤田 昇治
 (関東ブロック) 木村 由美
 (東京外国ブロック) 石野 由香里
 大須賀 匠
 (近畿ブロック) 中山 真理
 岡田 龍樹
 櫻井 裕子
 山本 真弓
 (九州沖縄ブロック) 金子 満
 志賀 玲子

(2025 年 12 月～2026 年 3 月理事会分まで)

お知らせ・募集

●プロジェクト研究 新テーマ募集 (応募要領)

1. 趣旨・経緯

日本社会教育学会においてプロジェクト研究は学会員主体の開かれた共同研究を進める重要な取り組みです。

かつて、学会の研究活動プロジェクトは、「宿題研究・課題研究」として研究担当理事を中心に理事会として研究課題を設定しておこなっていました。しかし、2000年代以降、学会員の主体的参加を保障し、学会員の多様な関心や問題意識を学会の組織的な研究活動に活かすために、学会員から広く運営委員を募って研究活動を進めてゆく「プロジェクト研究」として再編し、今日に至っています。

プロジェクト研究では、社会教育が直面している重要な課題を研究テーマに設定し、定例の研究会をもちながら、3年程度をかけて学会で共同的に研究をしていきます。2027年度開始の新規プロジェクト研究テーマを以下の通り公募します。プロジェクト研究を通して、研究の組織化が進むことを期待しており、積極的にご応募ください。

2. 応募者資格

日本社会教育学会会員の複数人の提案者によって構成されるグループ（ただし、現在進行中のプロジェクト研究の運営委員を除く）。1つの応募につき提案者が4人以下だった場合、当該応募を採択する過程で提案者を5～7人へ増やしていただくことになります（プロジェクト研究運営委員会内規第3条）。

3. 応募条件

- 1) 会員で広く研究・討議するにふさわしい社会教育研究に関する学術的テーマであること。
- 2) 3年間のプロジェクト研究を担う見通しがあること。

※採択後は、プロジェクト運営委員会内規にそって運営委員会を組織し（10～15名、プロジェクト研究運営委員会内規第3条）、六月集会および研究大会などでプロジェクト研究の企画・運営を担っていただきます。

4. 応募方法

「日本社会教育学会プロジェクト研究 新テーマ提案書（様式）」を学会サイトから入手し、これを用いて作成の上、5月31日（日）までに学会事務局宛にメール添付で提出。

- 1) 応募者の氏名・所属（複数人での応募の場合は代表者を明記）
- 2) 提案する研究テーマ
- 3) 研究テーマ設定の趣旨
- 4) 提案する研究テーマの下で探究すべきと考える検討課題
- 5) 研究期間中の見通し

※応募に関する不明点や問合せは、研究担当理事までお寄せください。応募に際しての事前相談も歓迎いたします。過去あるいは現在進行中のプロジェクト研究の経験を紹介すること、学会員どうしをつなぐコーディネート等の支援も行います。

5. 選考・採択後のスケジュール

- ・提案書にもとづき常任理事会で審議・決定（採択）します。採択までの過程で、複数のテーマの統合や、テーマ名の変更が提案されることがあります。
- ・常任理事会での採択後、研究担当理事が全国理事会と会員総会で報告します。その過程で、応募者（提案者）と研究担当理事の間で協議の場を設ける場合があります。
- ・会員総会で報告がなされた後、応募者（提案者）は代表者を中心に、会員に向けてプロジェクト研究運営委員の公募をおこない、常任理事会での承認を経て、運営委員会を発足させます。
- ・翌年（2027年）の六月集会からプロジェクト研究の企画を実施していただきます。

6. 締切 2026年5月31日（日）

7. 照会・提出先

日本社会教育学会事務局
(jssace.office@gmail.com)

以上

お知らせ・募集

●第17回日韓学術交流研究大会のご案内

日本社会教育学会と韓国平生教育学会は、2010年に締結した「学術交流協定」に基づき、両学会の学術交流をさらに発展させる取り組みとして、「日韓学術交流研究大会」を毎年、日韓交互に開催しています。

第17回日韓学術交流研究大会は今年5月に韓国・釜山で開催されます。

今回は、「高齢者教育」をテーマに、日韓の研究者、実践者が集い、実りある議論ができることを目指します。詳細は以下の通りです。多くの皆様の参加をお待ちしております。

記

1. 日時：2026年5月22日（金）～23日（土）＊22日はエクスカージョン
 2. 開催方法：対面・オンライン併用（ハイフレックス方式）
 3. 開催場所：釜山大学校（Pusan National University）
 4. テーマ：「高齢者教育」
 5. 共催：日本社会教育学会・韓国平生教育学会
 6. 参加費：
 - ・現地参加の場合：5万ウォン（約5,500円）（参加費には、23日のお昼と懇親会費が含まれます）、渡航費及び宿泊代は各自負担。
 - ・オンライン参加の場合：無料
 7. スケジュール：
 - ・5月22日（金） 14時以降 エクスカージョン
 - ・5月23日（土） 会場 釜山大学校
 8. 参加申込期限及び申込方法
 - ・申込締切は、現地参加の場合は5月3日（日）、オンライン参加は5月15日（金）となりますのでご注意ください。
 - ・下記、グーグルフォームからのお申し込みとなります。
<https://forms.gle/VqPdZXWhExC74REC8>
- ・詳細は学会HP上でご案内いたします。
- ・担当：国際交流担当理事 呉世蓮（関東学院大学） 秦範子（都留文科大学）
 国際交流担当幹事 金亨善（中央大学）

お知らせ・募集

●ポスターセッションの導入について(第73回研究大会より)

第73回研究大会より、本学会ではポスターセッションによる研究発表の場を設けることとなりました(大会二日目を予定)。

- 現代的課題や地域問題などにかかわる社会教育の議論を、より多くの人たちとより自由に行う場として
- 社会教育に関心をもつ学生(ゼミを含む)・院生等が、自身の問題意識や萌芽的研究、分野を超えた学際的研究を発信する場として
- 社会教育・生涯学習に関わる職員・実践者が、現場の状況や実践を可視化し、実践的・理論的な思索を共有する場として

個人またはグループでの参加です。ファーストオーサー(筆頭者)は学会員に限りませんが、非会員との共同発表も可能です。サイズはA0判1枚(縦210cm×横90cm)以内の「縦長版」で、この範囲であれば複数枚を掲示することができます。

参加資格や掲示・発表方法等の詳細は、学会HPや会員へのメール配信でご案内します(4月末予定)。幅広いご参加をお待ちしています(申込みについては下記参照)。

●第73回研究大会 申込みについて(自由研究発表・ポスターセッション・ラウンドテーブル)

第73回研究大会は2026年9月5日(土)～7日(月)※日程注意
法政大学市ヶ谷キャンパスにて開催される予定です。

《自由研究発表》 二日目 9月6日(日) 午前・午後

《ポスターセッション》 二日目 9月6日(日) 昼休み(必須在籍時間)

学会HPの申込システムからの申込になります。学会HPに掲載される要領をお読みの上、お申込みください。なお、ポスターセッションの詳細は、学会HPおよびメール配信でもご案内します(4月末予定)。

自由研究発表の時間指定および申込後のキャンセルはご遠慮ください。発表題目の変更は、原則として認められません。

締め切り(自由研究発表・ポスターセッション共通):6月10日(水)(厳守)

《ラウンドテーブル》 三日目 9月7日(月) 午後(2時間半程度)

ラウンドテーブルを希望される会員は、以下の項目をご記入のうえ、メールにて事務局へお申し込みください。①～④に記載された内容は、そのまま2026年7月下旬発行予定の「研究大会プログラム」に掲載させていただきます。

- ①テーマ
- ②コーディネーター氏名・所属
- ③報告者氏名・所属
- ④内容(200字以内)
- ⑤代表氏名・所属・メールアドレス

締め切りは6月30日(火)

※お申込みの際は、件名をラウンドテーブルとし、内容は添付ファイルにして下さい。

※送付先:事務局アドレス(jssace.office@gmail.com)

<大会参加申込み>については、研究大会プログラムにてお知らせいたします(7月末頃HPに掲載予定)。

お知らせ・募集

●「2026年度第1回オンラインロハ台」のご案内

2026年度第1回「オンラインロハ台」の開催内容が決まりましたのでお知らせします。
研究者・現場職員を問わず、会員の皆さんのご参加をお待ちしています。

【日時】 2026年5月15日（金）19:00～20:30（最大延長21:00まで）

【話題提供者】 溝内亮佑会員（九州大学大学院）

【テーマ】大学院での研究と実践の歩み—「自主夜間中学の開設過程における支援者の当事者性の獲得」
（『社会教育学研究』第61巻第2号、2026年）によせて

【企画主旨】

「自主夜間中学の開設過程における支援者の当事者性の獲得」は、2017年から現在に至るまで溝内会員がボランティアスタッフとしてかかわってきた福岡よみかき教室の開設にかかわった学校教師（当時）が、当事者性を獲得し、学校教育では包摂されえない識字ニーズを地域社会で自主夜間中学として展開していくに至ったプロセスを分析しています。

この論文は、溝内会員が修士課程当時から9年間にわたって実践にかかわる中、研究と実践における思索が相互にからみあいながら育ていった問題意識を論文文化させていったものです。溝内会員がどのように研究を進め、実践とかかわり、思索を深めていったのか、論文執筆プロセスのみならず、院生としての研究展開プロセスもからませながら、お話をいただきます。

【申込方法（申込フォーム）】 5月13日（水）ㄨ切

<https://docs.google.com/forms/d/1tdX0039V5W1cJP-4b7xf8z8XQRbY1zI7IH81HRbejgc/edit>

○注意事項：

* Zoomを使用します。できるかぎりカメラとマイクはオンをお願いします。

ブレイクアウト・セッション機能を用いた少人数での意見交換の時間を予定しています。

○お問い合わせ先

阿比留 久美（早稲田大学） abiru93 ◎ waseda.jp ※◎を@に変更

※「オンラインロハ台」は、大田堯さんが「農村のサークル活動」で描かれていた埼玉県西堀青年学級における「ロハ台」実践にアイデアをいただいて名付けました。研究成果を車座で囲みながら、研究をする上での喜び悩みを含めて、平場で忌憚なく語り合える場にしていきたいと考えています。

「学会からのお知らせ」

2026年 第1号（「学会通信」からの通号246号）

2026年4月10日発行

【発行】日本社会教育学会 事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町2-6-10-1F

E-mail: jssace.office@gmail.com <https://www.jssace.jp/>

【編集】倉持伸江・松田弥花（担当理事）、久野亜希子・王倩然（担当幹事）、池谷美衣子（事務局長）

【レイアウト】市民活動サポートセンター・アンティ多摩 E-mail: auntytama@a-simin.sakura.ne.jp
